

平成 24 事業年度の業務実績に関する  
評価委員会における提言

和歌山県公立大学法人評価委員会

公立大学法人和歌山県立医科大学に係る平成24事業年度の法人の業務実績に対する評価及び指摘事項等について、和歌山県及び公立大学法人和歌山県立医科大学に対する各委員の提言を、参考までに下記のとおり取りまとめた。

## 記

### 【教育・研究】

- MD－P h D<sup>※</sup>コース等の多様な履修形態の導入は評価される。今後は初期研修との両立や研究意欲をさらに高めるために、履修コースの内容の充実が望まれる。
- 医学部と保健看護学部の合同講義や種々の体験実習など医療人として必要なコミュニケーション能力やケアマインドの育成を目指した教育は大きな意義がある。  
今後は、単に「他分野や他職種と触れ合うことにより気づきの場を作る」といった受動的な教育にとどまらず、「総合的な能力の獲得」に向けたより積極的な教育方法の開発を進めるなど、ケアマインド教育の中身が一層充実することが期待される。
- 大学院医学研究科修士課程及び博士課程の学生定員充足率が90%を下回っており、今後も入学定員の適正化や入学者の学力水準に留意しつつ、充足に努める必要がある。
- 医学部における低学年での留年者数の減少に向けた対策を講じる必要がある。
- 附属病院の実績と比べて教育研究の実績評価がやや低い傾向にあるが、大学の使命として教育研究にエネルギーを注ぐことも重要である。臨床は毎年度の数値によって比較的評価が行いやすい一方で、教育研究は各年度の努力を積み重ねても長期的にはあまり大きな成果が出ないこともあり得る。  
常に法人としての長期的展望を明確にしながら取組を進めることが期待される。

- 研究推進のための取組が前年度に比べ実を結びつつあるが、今後はレベルの高い研究は更に重点的に取り組むとともに、臨床研究は研究者の広がりを目論みながら推進していくことが期待される。

### 【附属病院・地域貢献】

- がん診療については、長期的な視点に立ち、県民のヘルスケアがどのように改善したかを評価できるような仕組みづくりが必要である。
- 医師の地域偏在の解消と適切な配置に向けて、県民医療枠・地域医療枠の卒後のプログラムの更なる充実を含めた議論を行い、目標達成のために学内の体制づくりを行うことが期待される。
- へき地医療の医療水準の均てん化は、全国的な大きな課題であるが、急性疾患だけでなく、慢性疾患への対応の充実、予防医学の進展等の更なる取組についても検討されたい。
- 医療充実を図るため、附属病院で必要と考えられる感染症科等の診療科の立ち上げについて、なるべく早い実現が期待される。

### 【運営体制】

- 法人運営全般において、理事長のリーダーシップが発揮され教員や医療従事者の個々の努力が認められる。しかし、トップや個人の献身的な努力だけでは不十分であり、組織的に計画を遂行する体制の構築について、まだまだ改善の余地があると思われる。  
経営幹部の意思統一はなされているか、中間管理職は必要な機能を発揮しているか、事務部門は教育研究および医療の現場を効果的に支援しているか等について継続的に省察する必要がある。
- 医学部入学定員増に対して、カリキュラム等の現行の教員体制で取り組めること、教員定員を拡大しないと取り組めないことについて適切に分析し、実効性のある教育に向けた改善が望まれる。
- ハラスメント等の不祥事の発覚については、防止策の徹底とともに、

発生時に速やかな対応が可能となる仕組みの構築と実践が必要である。

- 看護部と保健看護学部との間でユニフィケーション会議を実施しているが、今後は更なる知識の共有や連携システムの構築が期待される。

#### 【その他】

- 業務実績報告書の記載について、前年度よりは改善したものの、「中期計画→年度計画→実施状況」における一連の目的手段関係が明確でない項目が残っている。

特に実施状況欄において、単なる活動記録の列挙、当該項目に直接関係が薄い議題等の列挙、同内容の複数項目への記載、などが散見される。中期計画・年度計画の達成のために何を行いどの程度実績を上げたのかという観点からの厳密な記載が必要である。

※MD－P h Dコース：医学部在学中に高度で専門的な大学院教育に接することにより、学生のリサーチマインド（研究意欲）を喚起し、基礎研究を志す学生を育成するプログラム。